

令和2年度 中小企業使えるBCP訓練モデル事業

訓練概要及び成果（3社）

I. 株式会社マルハ物産

訓練	災害発生時における時系列に沿った場面シミュレーション訓練
目的	①本社および各工場の現場管理職が行うべき対応を疑似体験する。 ②発災時、何を行う必要があるか、そのためにどのような準備が必要かについて気付き、今後の検討材料にする。

1. 訓練シミュレーションの実施

(1) 場面1（安否確認）

講師から提供された公知情報（テレビ、ラジオで収集された情報）に基づき、各所内の安否情報を取りまとめ、負傷者、不明者に対しての対応指示を出し、災害対策本部に安否結果を報告する。

(2) 場面2（被害状況確認）

講師から随時提供される被害状況に基づき、各所内の被害状況を取りまとめ、応急対応が必要なものへの対応指示を出し、災害対策本部に被害状況を報告する。

(3) 場面3（当日の最終指示）

これまでの公知情報及び従業員や顧客、取引先などからの様々の要望に基づき、各所内の従業員対応や顧客対応など、最終指示を出し、災害対策本部に報告する。

2. 情報共有

各グループが主に以下①②③の項目に関し、上記1～3の場面ごとに意見交換を行い必要事項の確認・共有を行うことで、参加者全員の対応力や判断力の向上に繋げた。

- ①不明者や負傷者に係る対応・指示
- ②応急対応に係る指示
- ③翌日以降の業務に係る指示

3. 振り返り

振り返りシート記入の上で、各場面における行動を迅速に行うために、以下の「具体的事項」に関し、今後の検討事項などの意見交換を行った。

- ・事前に決めておくべき基準やルールなどはないか。
- ・事前に準備しておくものや備品などはないか。

【具体的事項】

- (1) 社内行方不明者に対して捜索の指示を出せたか？
- (2) 負傷者に対する応急処置の担当者は、具体的に何をするか、どんなことに注意すればいいか等理解できているか？

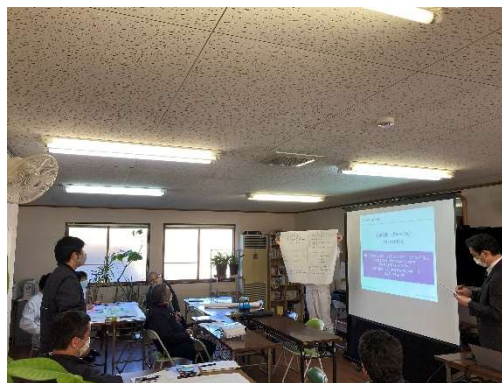
- (3) 二次災害防止の観点から、放置できない被害状況に対して、周辺地域情報を勘案した上で、何らかの意思決定を行ったか？
- (4) 帰宅希望社員に対する指示はどのようにするのか？

4. 訓練での気づきや成果（株式会社マルハ物産様記入）

- ・災害時の初動対応にどのようなものがあるか、どう行動するかを再認識出来た。
- ・現在の対策（備蓄品や設備備品類）で不足点が多く見つかった。
- ・帰宅時の判断について、班で見解の違いがあった。
- ・周辺情報の受け取りの重要度に班で見解の違いがあった。
- ・とっさのことに對し冷静な判断が難しいことが分かった。
- ・人命救助の対応が難しい。
- ・同じ情報を受け取っても、班によって行動方針、情報の軽重、見解に大きな違いがあったのは、BCPの情報に不足箇所があったからではと考えた。直感的に判断をしやすい簡潔な行動マニュアルが必要である。



シミュレーション訓練の様子



グループ発表・質疑応答

Ⅱ. 株式会社日産サティオ徳島

訓練	大規模災害時の初動対応のイメージ訓練
目的	①大地震が発生した際、従業員としてやるべきことは何かを具体的にイメージすることにより、社員の災害に対する意識を高める。 ②初動対応に必要な行動内容とその実施事項、平常時から準備しておくべきものを理解する。 ③災害発生直後の行うべき行動内容についてイメージし、ワークシートに記入する。

1. 訓練シミュレーションの実施

(1) 場面1 (発災後1時間～2時間)

講師から提供された想定リスクに基づき、各人で以下の課題を検討する。

【課題】

- ①このような状況の中、就業時間中の従業員は何をしなければならないか？
- ②行うべき行動として挙げたものに対する具体的な行動内容や、そのために準備しておくべきものをワークシートに記入。

※自分の役割以外でも会社全体として行うべき行動も含めて考える。

2. 振り返り

振り返りシートを記入の上で、それぞれの行動を迅速に行うために、以下の「具体的事項」に関し、今後の検討事項などの意見交換を行った。

【具体的事項】

- (1) 現状のBCPで決定されている対応内容との比較
 - ・自身の記入した内容は、現状のBCPでの記載例にあるか？
 - ・抜けているものはないか？
- (2) 具体的な行動内容について
 - ・行うべき事項に対する具体的な行動内容で、現状のBCPに抜け漏れはないか？
- (3) そのために準備しておくべきものについて
 - ・現状のBCPで準備されているものに、不足しているものはないか？
- (4) その他
 - ・初動対応をスムーズに行うために、更なる改善点はないか？

3. 訓練での気づきや成果 (株式会社日産サティオ徳島様記入)

- ・初動対応手順については、全員に印刷したマニュアルを配布しているため、ある程度浸透していることが確認できた。
- ・事業継続活動については、事業継続計画書の取扱や存在を含めて、浸透が進んでおらず、全員に周知するための取り組みが必要だと確認できた。

- ・ はじめての BCP 訓練だったが、社員からの反応は好意的で、継続的に実施して欲しいという希望が多数寄せられた。
- ・ 今後も BCP 訓練を継続し、社員とお客様の命と生活を守り、地域に貢献できる企業になっていきたい。



ワークショップの様子



本社以外の各支店はリモートで参加

Ⅲ. 株式会社はなおか

訓練	災害発生時における時系列に沿った場面シミュレーション訓練
目的	①本社および各現場の管理職が行うべき対応を類似体験する。 ②発災時、何を行う必要があるか、そのためにどのような準備が必要かについて気付き、今後の検討材料にする。

1. 訓練シミュレーションの実施

(1) 場面1 (安否確認)

講師から提供された公知情報(テレビ、ラジオで収集された情報)に基づき、各所内の安否情報を取りまとめ、負傷者、不明者に対しての対応指示を出し、災害対策本部に安否結果を報告する。

(2) 場面2 (被害状況確認)

講師から随時提供される被害状況に基づき、各所内の被害状況を取りまとめ、応急対応が必要なもののへの対応指示を出し、災害対策本部に被害状況を報告する。

(3) 場面3 (当日の最終指示)

これまでの公知情報及び従業員や顧客、取引先などからの様々の要望に基づき、各所内の従業員対応や顧客対応など、最終指示を出し、災害対策本部に報告する。

2. 情報共有

各グループが主に以下①②③の項目に関し、上記1～3の場面ごとに意見交換を行い必要事項の確認・共有を行うことで、参加者全員の対応力や判断力の向上に繋げた。

- ①不明者や負傷者に係る対応・指示
- ②応急対応に係る指示
- ③翌日以降の業務に係る指示

3. 振り返り

振り返りシート記入の上で、各場面における行動を迅速に行うために、以下の「具体的事項」に関し、今後の検討事項などの意見交換を行った。

- ・事前に決めておくべき基準やルールなどはないか。
- ・事前に準備しておくものや備品などはないか。

【具体的事項】

- (1) 社内行方不明者に対して搜索の指示を出せたか?
- (2) 負傷者に対する応急処置の担当者は、具体的に何をするか、どんなことに注意すればいいか等理解できているか?
- (3) 二次災害防止の観点から、放置できない被害状況に対して、周辺地域情報を勘案した上で、何らかの意思決定を行ったか?
- (4) 帰宅希望社員に対する指示はどのようにするのか?

4. 訓練での気づきや成果（株式会社はなおか様記入）

- ・ 有事を想定した訓練を継続的に繰り返し行い、普段から意識を高めることが大切だと感じた。
- ・ 予め決めておかなければいけない項目がたくさんあり、現状の BCP 計画では不足する点も多々あることに気付かされた。（①決定すべき人、責任者を明確にすべき②「基準を定めておく」安全基準、判断基準等③優先順位をつけて取捨選択すること）
- ・ 自社で策定した BCP 計画の内容をもっと社員と共有し浸透させる取り組みが必要であると感じた。
- ・ 自社のことだけに目を向けるのではなく、近隣地域へも目を向けた BCP 計画ができればと感じた。（現場仮設トイレの共有、仮設ライフラインの利用、モデルハウスの開放など）



シミュレーション訓練の様子



グループ発表・質疑応答

令和2年度「中小企業使えるBCP訓練モデル事業」概要

【開催目的】

策定指導専門家が受講企業を訪問し、ヒアリング・打合せを行った上で、受講企業の要望に沿った訓練手法を選択し、現状BCPを踏まえた訓練シナリオに基づくオーダーメイド型のBCP訓練を実施する。集合研修型の訓練でないため、自社BCPの改善のみならず、社員の意識向上・行動能力の強化に直接繋げることを目的とする。

【受講対象】 徳島県企業BCP認定企業

【スケジュール：全3回】

策定指導専門家が3回企業訪問を行い、現状のBCPをヒアリングし、作成したシナリオに基づき、当該企業オリジナル訓練を実施する。

[1回目] 現状のBCPのヒアリング

[2回目] 1回目ヒアリングを基に講師が作成した訓練シナリオ・資料についての打合せ

[3回目] 受講企業オリジナル訓練の実施